

「八木健会長と高浜虚子の滑稽句2」

2009.04.26 （聞き手 高橋素子）

高橋 会長には前回、会長ご自身と虚子の滑稽句の前半部分を笑いの内に、楽しくご解説戴き本当に有難うございました。

今回も後半部分の解説を、前回同様よろしくお願い致します。

会長 はあい 楽しいですねえ こういうの好きでしてね どんどんやりましょう。

高橋 それでは、今回も協会報No.6 に会長ご自身にご掲載戴いた虚子の滑稽句の後半部分を年代順にあげて、それに対応する会長の滑稽句を前回同様勝手に選ばせて戴きますので、お手柔らかにお願い致しますね。（笑い）

☆紙魚のあとひさしのひの字しの字かな

昭和21年ホトトギスに載った「紙魚の句」ですね。会長の紙魚の句といえば、すぐ思い出すのは、

窮屈をものともせずに紙魚の恋

ですが、これは、2009年一月号のインタビューで取り上げさせて戴きましたので、今回は句集「鯉の耳」のこの句にさせて戴きますね。

紙魚と生れ(あれ)

大言海(だいげんかい)を泳ぎゐる

「大言海」は大槻文彦による「言海」を自ら増補訂正した国語辞書ですね。その辞書の言葉の大海の中を本に棲む紙魚が泳いでいるとしゃれた滑稽句ですね。おそらく紙魚は書物から様々な知識を得たものと思われませんが、虚子の句とともにご説明戴けますか？

会長 駄洒落まじりですね。
虚子は駄洒落結構好きだったようですねえ。

ひさしのひの字しの字・・・は紙魚が食べた痕跡ですね。ひさしぶりに紐解いた書物なんですね・・・紙魚の食ったのは昨日今日のことじゃないから、その意味でもひさしのひの字しの字というわけです。

紙魚と生れ(あれ)大言海(だいげんかい)を泳ぎ
ゐる・・・。

紙魚という小さな魚にとっては大言海はまさに大きな海です。
俳句は対象に自身を重ねて詠む・・・とすれば大言海は俳壇という海、紙魚は俳人ですね。

溺れそうになりながら健気に泳ぐ
「井の中の蛙大海を知らず」
という諺にも似て（笑い）

高橋 成る程、会長の句には、海だから泳ぐという洒落だけではなく、もう一步深い意味が込められていたわけですね。脱帽です。（笑い）では、次の句に参りますね。

巖といふ字寒といふ字を身にひたと

漢字を用いたなかなか洒落た句ですね。これに対する会長の漢字の句はいろいろありますが・・・

この句にさせて戴きますね。

蛙てふ文字蛙の字に潜む

なるほど、実際の蛙もまた蛙に隠れて居そうで面白い句ですね。ご説明下さいね。

会長 その通りです。蛙は土を重ねた中に潜んでいます。蛙は田の土を重ねてつくります。蛙と蛙の字は酷似しています。こういう例はいくらでもありますね

★文字通り丘を引きずる蚯蚓かな

なども そうです。

高橋 次の句は、

年の暮日を間違へて一日損

忙しい年の暮れ、確かにこんな気持になりますね。正直な気持を詠まれた会長の句と言えば、あっ！面白い句がありましたよ。

焚火です古新聞に放火して

他の人が見たらただ焚火の為に、ただ古新聞に点火している様に見えるだけかも知れませんが、ご本人の心を覗いてみると、「放火の気分」・・・これが正直な気持なのですね？
面白い句ですね。（笑い）

会長 滑稽句は 読者の共感を得て初めて滑稽句としての存在感があります。それは作者の正直な心が句に出ていることが肝心です。

最近の拙句にこんなのがあります。

損しやうな得したやうな大朝寝

これも正直を書きました。

高橋 本当にそうですね。
でも、私など「春眠暁を覚えず」で有名な孟浩然の大支持者ですから、大朝寝は凄く得した気分
に・・・これ、ただの横着者という事ですか？
（笑い）

では、子供をまるで物体の如く扱う可笑しさという点から次の句に

裸子をひつさげ歩く温泉の廊下

これにぴったりの会長の句がありましたね。

歳末の玩具売場の子をはがす

平素でも玩具売場で子を連れて帰ろうとすれば、確かに無理やり「はがす」感覚ですね。
「はがす」とは面白い表現を思い付かれますね。
流石です。（笑い）

会長 これは客観写生ですね。説得をあきらめ実力行使の母・・・ですね。
つまり、その場の情景を表現するのに ふさわしい 言葉を見つけるのが俳句の技でしょう。
必死の子どもと懸命な母親のドラマです。

高橋 成る程！母子のドラマですか。

では、次の句に行っていていいですか？

大小の欠伸の圓や梅雨眠し

大人が大、子供が小という欠伸の口の形の面白さですね。形の面白さという点で会長の滑稽句を挙げさせて戴ければ、

○△□に灯りキャンプ場

ですよ。夜になってキャンプ場を上から眺めると、明かりの灯ったテントが○、△、□に見えると・・・意外性のある表記の仕方が面白い滑稽句ですね。

ご説明戴けますか？

会長 ふたつの句はともに、「かたち」をそのまま書いたところが滑稽ですね。
そして虚子の「梅雨眠し」季語の傍題であるかのような、うまいですねえ。
それに・・・大小の圓だけで大人と子どもの退屈が伝わります。

私の句は「灯り」でテントの中のそれぞれの語らいが想像できるはず。かたちは滑稽なんだけど、内容は奥が深い。こういうのを自画自賛というんだ。

高橋 では、ここで少し客観的なエロチシズムな句を、

乳いぢる癖の女や懷手

うーん！虚子には、女人の着物の内側まで見通す目を持っていたという事でしょうか？

これに対する会長の滑稽句と言え、この句にさせて戴いていいですか？

★色恋を卒業出来ず生身魂

「いきみたま」とは・・・会長もこの季語に初めて出会ったときは驚いたと、「可笑しい俳句講座1」にお書きですが、私も季語ではありませんが、「未亡人」という言葉に初めて出会った時には、凄く憤慨して・・・だって夫と死別した女性に対して「いまだ亡くならざる人」なんて！失礼ですよ。・・・ごめんなさい。脱線してしまいました。（笑い）。

ご高齢になっても色恋を卒業出来ず、お元気で色恋を楽しんでいるお年寄りに対する賛歌としてこの句をお作りになられたという事ですが、虚子の句と共に、ご説明下さいね。

会長 虚子は 乳をいぢるのは見えないのに、乳いぢる癖と言っているわけで、現在いぢっているとは言ってません。懷手だからおそらくいぢっているだろうということですね。

いぢる癖・・・について虚子は知っててたからこういう句が出来た。その女性とどんな関係か・・・かなり親密でないとこういう風景には出会えないわけで・・・。

私もこういう句を作りたいんですよ。
経験したいなあ

祈る気持・・・これを敬虔の祈りというんだ
私の句は大岡越前ですね。
母親に女性の色欲は何歳ぐらいまでか・・・と問うた

ところ母親が火鉢の灰をかき回して灰になるまで・・・といった。
禅問答ですが、それは現実のもので、生身魂は「いきみたま」と読まずに「なまみたま」と読めば、なまなましさが伝わります。

★色恋を卒業せずに生身魂(なまみたま)

ですね

高橋 俳句歳時記では、「いきみたま」と読ませてますが、確かに「なまみたま」の方が、よりなまなましさが伝わりますね。・・・（笑う）
では、次の句はお酒の席での風景ですが、

熱爛に泣をる上戸ほつておけ

これに対する会長の句はこれがいいですね。

熱爛のおかはり論客に嘔みつかれ

この句は倒置法ですね。

★論客に嘔みつかれ熱爛のおかはり

・・・とすると意味が良く分りますね。
ご説明下さいね。

会長 上戸は底が抜けています。そこで酒飲みを「上戸」と呼び、飲めないのを「下戸」というわけですがなにかにつけてすぐ泣く人を「泣き上戸」と言いますね。

一座は上戸が熱爛を楽しんでいる。少し下戸の部

類に入る奴が実は泣き上戸。すぐ酔って泣上戸に変身。泣上戸の愚痴をいちいち聞いてられない。そんな奴はほっとけ・・・というわけです。

私の句は、楽しい酒の席で論客に噛みつかれて反撃に出るのに酒の勢いを借りるというんです。だから「おかはり」必要ですね。

虚子の句も私の句も瞬間の可笑しい映像です
虚子の「泣き上戸を慰めずにほっとけ」を、

☆熱爛や聞き役のゐる泣き上戸
・・・では面白くない。

私の句も
★熱爛や論客同士酌みかはす

ではつまらん、だから噛み付く。

高橋 なかなか面白い情景ですね。では次の句は、

欠伸せる口中に入る秋の山

欠伸した口の中に山が入るというのですから
凄い誇張ですね。会長の誇張の句はいろいろありますが・・・あっ！この句にしますね。

恋猫に包囲されたる一軒家

凄まじい声を上げて、一晩中家の周りをぐるぐると雌猫を追いかけて回す雄猫たちの様子が「包囲」という言葉で実によく出ている素晴らしい句ですね。

被り物をかなぐり捨てた猛獣の如き猫達に、一晩中眠れず悩ませ続けられたこの家の人たちを想像

するとつい笑ってしまいますが・・・
ごめんなさい。、同情すべきところでした。（笑い）

会長 虚子の句は欠伸の大きさ・私の句は恋猫の騒がしさですね どちらも思いこみです。
大袈裟に言うのではなく そのように感じた。
感じたままを描くと結果として誇張になります。

高橋 そうですか？結果的に誇張になるという事ですね。では、この辺りでエロチシズムらしき？句を・・・

髪洗ふ女百態その一つ

100-1は、あと、99態想像出来るという事ですか？（笑い）
これに対する会長の句は・・・あっ！いいのがありますよ。

男ものハンカチ女の足拭ふ

読み方によっては、際どい男女の仲の句ですね。
でも会長ご自身の解説の中で、「女が男ものハンカチを使ってる」と上手に逃げを打っていらっしゃるので、これは裏切りの句にもなりましたね。

でも最後に「妙齡の女性の足を拭って見たい気も・・・」等と本音をちらりと覗かせていらっしゃって・・・流石です。これ以上の説明は、虚子の句とともに会長ご自身にお任せしましょうね。（笑い）

会長 虚子は100態をすべて知っているわけではないで

しょう。髪を洗う女を見て艶かしく思い、これが百態のひとつなのだろうと思ったわけです。

虚子はそのことを発見したのです。なるほどこれがそうか・・・と思ったから描いたのでしょう。

男ものハンカチ・・・これは実際の風景です
吟行で歩き疲れて、溪流に足を浸して足の熱を冷
ます。靴を履くには足を拭かねばならん。
そこで男ものハンカチが登場したのです。

ハンカチがきっかけでドラマが生れたのかどう
か、すくなくとも男ものハンカチはどきどきしな
がら・・・これは残念ながら・・・つくり話です。

高橋 作り話か実話かは読者にお任せして・・・。（笑
い）では、次の句にいいですか？

香水の香にも争ふ心あり

香水ではなく、本当は女の見栄の争いという事で
すが・・・そう言えば、会長の句にも幼くしてお
兄様との競争心が芽生えていた記憶をお詠みに
なった句がありましたね。

ラムネ飲む兄と同じに胸たたき

ご説明下さいね。

会長 香水の句・・・私の香水の方が高価だわ・・・
なんてわかるんですかね。

この句は解釈の通りですね。私の句は競争心とい
うよりも、兄の真似をして育つ純心の可笑しさで
しょうか。

高橋 香水はやはり有名なブランドものが高価かと・・・？単なる自己満足と思いますが・・・。
あら、もう最後の句になってしまいましたが、これは、昭和３４年虚子が亡くなった年のホトトギスに載った句ですね。

客去れば庭に現れ草刈女

これに対応する会長の句と言えば、やはりこの句がいいですね。

蓑虫に聞かれてをりし立ち話

ご著書「八木健の俳句ですよ」の中に・・・
蓑虫は、音だけでなく外界の様子を察知する敏感な虫。井戸端会議の明るい笑い声には、ぶらぶら糸を少し揺らし、逆に陰悪な雰囲気の際は、糸をたぐり枝の上の方に逃げていく。

特に興味深いのは、噂話をすると、会議に加わりたのか蓑から顔を出す・・・などと、羨ましい程の童心でお書きになっていますね。
私も明日から蓑虫見つけたら、側で笑ったり、怒ったり、近所の奥様方と会長の噂話でもして蓑虫の反応でも見てみようかと。。
楽しみですね。（笑い）

会長 虚子の句・・・草刈女は、もの陰で見えていてお客が去ったと見れば出てくる・・・
可笑しいのは、草刈女でなく、盗み見られていることに気付かない客です。世の中いつも誰かに見られている。最近は防犯カメラに見られている。

私の句は 「聞かれている」と気付いたときの慌てぶりです。実際は聞かれたりなんかしないのに聞かれてしまったと瞬間思う心の可笑しさです。

高橋 心の疾しさ？あせり？蓑虫さえにも・・・？（笑い）

本日は、またまた笑いのうちに楽しく、会長と虚子の滑稽句の比較の学習が出来ましたこと、本当に有難うございました。
今後の作句活動に少しでも生かすことが出来たらと、楽しみです。

会長 ありがとうございます。
こうしてインタビューされてみると、虚子と八木健の共通点が多いのに驚きますね。
虚子もなかなか頑張っていたんだ。

（2009年 5月号）